

令和7年度 第3回金沢市DX会議 発言要旨

【日時】 令和8年1月19日（月）16:00～17:00

【場所】 金沢市役所第一本庁舎 405 会議室

○報告事項 デジタル市民パスポートについて

- 「かなざわデジタル市民パスポート（かなパス）」についての市民の反応は？
→まだ報道発表段階で、実際にアプリを利用できる状態ではないため、具体的な意見などは今のところいただいていない。アプリ公開後に意見が出てくると考えている。
- 金沢市はこれまでおそらく様々なアプリを個別に作成してきており、市民側も、インストールしている・していないが人によってばらつきがある。かなパスは災害時活用が大きな目的と思われる。市民が普段使いするアプリ機能を集約し、かなパス内で全て完結させることで、市民に使い慣れてもらうのがよい。そうすれば、災害時に非常に役立つ。

○議題「金沢市DXアクションプラン 2.0（案）」の検討

- パブリックコメントを受けて、プラン案に改訂はあったか？
→理念部分に変更なし。今回は市長選のため、3月議会は骨格予算となり、新規の施策は6月補正での計上を予定している。そのため、具体的な施策は令和8年6月に追加掲載としていたが、パブリックコメントではこのことに触れていないため、具体性に関するご意見をいただいた。具体的な施策は6月に反映させていきたい。
- パブリックコメントにあったが、具体的な市民生活の変化は、どう可視化していくか。
→数値目標を設定する際に、例えば、電子化された手続数などではなく、窓口に来る人の減少数などを見せるべきではないか、というのが意見の趣旨であったと認識している。理念としてはそのとおりだが、因果関係の証明がなかなかしづらく、今後の検討課題である。まずは施策を示し、さらにその先の見せ方は検討していく。
- 金沢市はAIの活用といったDX化が進んでいる。電子申請拡充、キャッシュレス、RPA、AI-OCRといったステージ1の取り組みや、職員の業務効率化を市民にオープンにして、またその効率化された部分が、市民のためにどういう施策でどう使われるか、見える形でアピールするとよい。他自治体のように、金沢市も積極的にアピールするとよい。

- 計画の理念をどのように市民がメリットとして実感できるかが大事である。2.0では「社会浸透」から「社会実装」への移行になり、市民がその変化を感じられるKPIなどが設定できるとよい。また、政府が12月に発表した「地方創生総合戦略」や個別施策の動きも参考にするとよい。

→市民へのメリットの示し方は、今後検討していく。

- 2.0においても、DXを市長主導のもとで進めることを総論で明確にしていることで、DXが戦略的であるというメッセージも伝わる。パブリックコメントでの具体的な提言は、6月補正予算の後に検討されるのか？

→次の4年間の施策の方向性として、参考にしながら進めていく。

- 日本、特に公的機関だと、宣伝を控えてしまう傾向があるが、成果を市民に理解してもらうための情報共有・発信は大切である。

- 成果の可視化について、市民の満足度は共有できるとわかりやすい。

→市民アンケートやeモニターを活用し、満足度を計測していきたい。

- 金沢の観光産業にはポテンシャルがある。文化や歴史、食、工芸など、世界に誇れる資産がたくさんあるので、ぜひデジタルを活用してアピールしていただきたい。

- 未来共創計画にも市民アンケートがあるが、そこにDXに関わるものもある。そこからも、変化が分かってくると思われる。

- 世界でのAI活用レポートにおいて、日本は順位が低く、活用率も19%程度。金沢市などは戦略的に活用されているが、デジタルガバナンスのリスクがある等で二の足を踏むところも多い。AIなどの新しい汎用技術が興ったときに、発明したところよりも、活用が進んでいる国・地域が、経済成長していく。金沢市はAIを推進しており、今後は市民にもつなげていくことも含め、2.0で良いスタートを切っている。今後も期待する。

→庁内等でのAI活用の促進は引き続き図っていく。また、今後人口減少が見込まれる中、限られた職員数でもこれまで以上の仕事をするべく、使えるものはどんどん活用し、市民サービスに還元していきたい。

- まだ骨格のプランなので、6月にしっかりと肉付けがされることを期待する。

※「金沢市DXアクションプラン2.0（案）」は原案に沿って策定として、委員了承。